

WOWOW 平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月28日

上場会社名 株式会社 WOWOW

上場取引所 東

コード番号 4839 URL <http://www.wowow.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 晃

問合せ先責任者 (役職名) IR 経理局長 (氏名) 尾上 純一

TEL 03-4330-8097

四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	19,866	0.6	3,454	74.5	3,649	79.9	2,469	76.5
29年3月期第1四半期	19,748	8.1	1,980	25.4	2,028	27.1	1,399	24.3

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 2,481百万円 (192.1%) 29年3月期第1四半期 849百万円 (51.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	91.48	
29年3月期第1四半期	51.84	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	83,257	50,053	60.1
29年3月期	81,461	49,731	61.0

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 50,053百万円 29年3月期 49,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		80.00	80.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		80.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	40,600	3.5	5,100	1.4	5,300	4.2	3,700	3.3	137.08
通期	82,500	5.4	9,000	11.3	9,400	8.6	6,500	4.4	240.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	28,844,400 株	29年3月期	28,844,400 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	1,853,163 株	29年3月期	1,853,163 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	26,991,237 株	29年3月期1Q	26,991,270 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)2ページ「経営成績に関する説明」及び3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算短信補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について)

当社は平成29年7月28日(金)に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催いたします。当日使用する四半期決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	8
3. 補足情報	10
(1) 販売の状況	10
(2) 四半期個別業績情報(参考)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の不確実性や政治的・地政学的問題等の不安要因はあるものの、企業収益や雇用環境の改善を背景に、穏やかな回復基調が続いております。

このような経済環境下、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、新たに㈱IMAGICAティーヴィを連結子会社化したことなどにより、売上高は198億66百万円と前年同期に比べ1億17百万円(0.6%)の増収となりました。営業利益は番組費が前年同期に比べ減少したことなどにより、34億54百万円と前年同期に比べ14億74百万円(74.5%)の増益、経常利益は36億49百万円と前年同期に比べ16億20百万円(79.9%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億69百万円と前年同期に比べ10億70百万円(76.5%)の増益となりました。

各セグメントの状況は次のとおりです。

<放送>

新たに㈱IMAGICAティーヴィを連結子会社化したことなどにより、売上高は190億50百万円と前年同期に比べ10億47百万円(5.8%)の増収、セグメント利益は35億58百万円と前年同期に比べ16億31百万円(84.7%)の増益となりました。

また、当第1四半期連結累計期間の加入状況は次表のとおりとなりました。

(単位：件)

	第33期第1四半期	第34期第1四半期	対前年同期差	対前年同期増減率
新規加入件数	175,054	103,550	△71,504	△40.8%
解約件数	126,643	124,455	△2,188	△1.7%
正味加入件数	48,411	△20,905	△69,316	—
累計正味加入件数	2,853,085	2,802,280	△50,805	△1.8%
うち複数契約(注)	419,842	419,594	△248	△0.1%

(注) 当社は同一契約者による2契約目と3契約目につき月額2,484円(税込み)の視聴料金を972円(税込み)に割引しており、当該割引の対象となる契約を「複数契約」と呼称しております。

<テレマーケティング>

ECショップ等でのグッズ販売の減少などにより、売上高は16億28百万円と前年同期に比べ10億2百万円(△38.1%)の減収となりました。また、新たな高付加価値サービス開発費用の増加などもあり、セグメント損失は94百万円(前年同期は53百万円の利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は832億57百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億95百万円の増加となりました。主な要因は、流動資産で現金及び預金が減少しましたが、流動資産で番組勘定、固定資産で無形固定資産のその他及び投資その他の資産の投資有価証券が増加したことによるものです。

(負債)

負債は332億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億72百万円の増加となりました。主な要因は、固定負債でその他が増加したことによるものです。

(純資産)

純資産は500億53百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億22百万円の増加となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び剰余金の配当によるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.9ポイント下り、60.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29(2017)年5月15日に公表した連結業績予想の修正は行っておりません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、当第1四半期連結会計期間末において以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- ① 加入者獲得・維持に関わるリスク
- ② 加入代理店等に関わるリスク
- ③ B S (放送衛星) 利用に関わるリスク
- ④ 当社の地上設備に関するリスク
- ⑤ B-C A Sカードのセキュリティに関わるリスク
- ⑥ コンテンツに関わるリスク
- ⑦ 映画製作・配給投資に関わるリスク
- ⑧ 著作権などの知的所有権に関わるリスク
- ⑨ 放送関連法制度に関わるリスク
- ⑩ 加入者の個人情報保護に関わるリスク
- ⑪ 為替レートの変動に関するリスク

各リスク項目の詳細につきましては、平成29年3月期決算短信(平成29年5月15日提出)添付資料4ページの「1. 経営成績・財政状態に関する分析 (4) 事業等のリスク」をご覧ください。当社決算短信は、次のURLからご覧いただくことができます。

(当社ウェブサイト(IR情報))

<https://corporate.wowow.co.jp>

(東京証券取引所ウェブサイト(上場会社情報検索ページ))

<http://www.jpx.co.jp/listing/co-search/01.html>

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,503	20,112
売掛金	4,877	5,215
商品及び製品	141	193
番組勘定	24,116	26,358
貯蔵品	54	48
繰延税金資産	1,142	1,228
その他	2,032	2,479
貸倒引当金	△121	△118
流動資産合計	57,747	55,518
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,042	2,038
機械及び装置(純額)	3,507	3,220
工具、器具及び備品(純額)	932	846
その他(純額)	5	110
有形固定資産合計	6,488	6,216
無形固定資産		
借地権	5,011	5,011
のれん	—	791
その他	2,201	4,260
無形固定資産合計	7,212	10,063
投資その他の資産		
投資有価証券	8,627	9,856
繰延税金資産	393	440
その他	1,014	1,191
貸倒引当金	△22	△29
投資その他の資産合計	10,013	11,458
固定資産合計	23,714	27,738
資産合計	81,461	83,257

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	23,298	23,687
未払法人税等	1,508	1,167
賞与引当金	66	115
受注損失引当金	—	13
その他	5,074	5,309
流動負債合計	29,947	30,293
固定負債		
退職給付に係る負債	1,656	1,733
その他	125	1,176
固定負債合計	1,782	2,910
負債合計	31,730	33,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	2,738	2,738
利益剰余金	44,540	44,850
自己株式	△3,081	△3,081
株主資本合計	49,197	49,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	611	633
繰延ヘッジ損益	△78	△87
その他の包括利益累計額合計	533	545
純資産合計	49,731	50,053
負債純資産合計	81,461	83,257

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	19,748	19,866
売上原価	11,367	10,115
売上総利益	8,381	9,751
販売費及び一般管理費	6,400	6,296
営業利益	1,980	3,454
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	24	27
為替差益	—	66
持分法による投資利益	62	92
その他	4	7
営業外収益合計	92	194
営業外費用		
為替差損	44	—
その他	0	0
営業外費用合計	44	0
経常利益	2,028	3,649
特別利益		
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産除却損	5	30
特別損失合計	5	30
税金等調整前四半期純利益	2,023	3,621
法人税、住民税及び事業税	567	1,171
法人税等調整額	56	△18
法人税等合計	624	1,152
四半期純利益	1,399	2,469
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,399	2,469

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	1,399	2,469
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△193	22
繰延ヘッジ損益	△344	△13
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	3
その他の包括利益合計	△549	12
四半期包括利益	849	2,481
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	849	2,481

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結損 益計算書計上 額
	放送	テレマーケテ ィング	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,050	815	19,866	—	19,866
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	813	813	△813	—
計	19,050	1,628	20,679	△813	19,866
セグメント利益又は損失(△)	3,558	△94	3,463	△9	3,454

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額△9百万円には、のれんの償却額△16百万円及び貸倒引当金の調整額7百万円が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(1) 固定資産に係る重要な減損損失

該当事項はありません。

(2) のれんの金額の重要な変動

当第1四半期連結会計期間において、㈱IMAGICAティーヴィの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、「放送」において808百万円のれんが発生しております。

(3) 重要な負ののれん発生益

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 ㈱IMAGICAティーヴィ

事業の内容 BS/CSデジタル放送、放送番組の企画・編成

自社番組制作及び映像制作受託

DVDの企画・制作・発売

ホテルのPAY TVシステム企画、販売、運営、コンテンツ供給

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、4K/8K、スマートTV等放送サービスの進化や、パーソナルデバイス普及によるコンテンツ視聴スタイルの変化といった中長期的な事業環境の変化を確実にとらえ、価値ある存在感を持った企業であり続けるため、中期経営ビジョンとして「VISION2020」を掲げ事業を推進しております。当該ビジョンでは「No.1 プレミアム・ペイチャンネル」としての収益基盤をより強固にすると同時に、プレミアム・チャンネル、プレミアム・コンテンツの幅を広げることで、平成32(2020)年に向けて総合エンターテインメント・メディア企業への変革を目指しております。一方、㈱IMAGICAティーヴィは、衛星放送、ケーブルテレビ及びIPTVにおいて、「イマジカBS・映画」チャンネル及び「歌謡ポップスチャンネル」を提供するとともに、ホテル・法人向けの映像配信事業を行っております。今般、㈱IMAGICAティーヴィを当社グループに迎え入れることにより、当社及び対象事業の更なる成長と事業価値の最大化を目指していきたいと考えております。

本件取引を通じて、主として以下の効果を期待しております。

① メディアとしてのプレゼンス向上

㈱IMAGICAティーヴィと共に良質なコンテンツの制作力・プロデュース力を高め、メディアとして一層のチャンネル価値・ブランド価値を高めることを期待しております。

② シナジー効果の発現

㈱IMAGICAティーヴィの有する顧客基盤へのリーチをてこに、当社のプレミアム・メディアとしての更なる成長が可能となると考えており、同時に㈱IMAGICAティーヴィにおいても映画調達に関わるノウハウの強化、制作費・編成費の効率化等のシナジー効果が見込まれます。また、㈱IMAGICAティーヴィのホテル関連事業については、当社が中期ビジョンで掲げるサービス領域の拡大に資する他、調達・提供可能なコンテンツ領域が拡大すること等を通じて、同社事業の更なる成長を期待しております。

(3) 企業結合日

平成29年4月3日(株式取得日)

平成29年4月1日(みなし取得日)

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

平成29年10月1日に㈱WOWOWプラスに商号変更の予定です。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 四半期連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成29年4月1日から平成29年6月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	2,986百万円
-------	----	----------

取得原価	2,986
------	-------

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 120百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

808百万円

なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出した金額であります。

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生しております。

(3) 償却方法及び償却期間

12年間にわたる均等償却

3. 補足情報

(1) 販売の状況

当第1四半期連結累計期間における売上高実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	売上高(百万円)	前年同四半期比(%)
放送	19,050	105.8
テレマーケティング	815	46.7
合計	19,866	100.6

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 3. 放送セグメントには有料放送収入17,404百万円を含んでおります。

(2) 四半期個別業績情報(参考)

① 個別経営成績(累計)・個別財政状態

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	17,698	△1.0	3,493	85.6	3,742	81.9	2,588	78.4
29年3月期第1四半期	17,884	1.5	1,882	△27.3	2,057	△29.2	1,451	△27.3

	総資産		純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円
30年3月期第1四半期	75,521	44,344		
29年3月期	75,137	43,905		

(注) 個別経営成績(累計)・個別財政状態の数値は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

② 平成30年3月期の個別業績予想

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	35,700	△1.3	5,200	△7.1	3,600	△6.8	133.38
通期	72,300	△0.8	9,000	△8.9	6,300	△2.5	233.41

(注) 当四半期における業績予想の修正はありません。